

大阪府立大学中百舌鳥・りんくうキャンパス学生自治会
加藤 鉄馬 様
大阪府立大学羽曳野キャンパス学生自治会
湯川 翔太 様

大阪府立大学 副学長（学生担当）・学生センター長 吉田 敦彦

大阪府立大学 2020 年度後期授業に関する要望書に対する回答

承った要望書について、以下のとおりにそれぞれご回答いたします。

<中百舌鳥・りんくうキャンパス学生自治会要望回答>

- ①今年度前期授業期間における学校設備維持費を一部返還すること。あるいは、今年度後期授業期間における図書館等の学校施設を開放すること

回答	<p>大学の施設は特措法に基づく大阪府の要請に従って使用を休止していた期間もありましたが、6月15日(月)より研究活動や、実験・実習などの対面授業を順次開始しています。それまでの期間も含め、前期期間中に行われているオンラインによる授業（演習も含む）や研究指導は、学生の皆さんの学修機会を確保するとともに、感染のリスクを低減するために実施しているものです。そのため授業の回数の変更や、実験・実習の延期などでシラバスが変更される場合がありますが、補講や授業中に課題研究などを課すなどの工夫で、法令で定められた学修時間を確保するとともに、当初予定されていた到達目標を保障し、皆さんが所定の修業年限（獣医学類なら6年間）で卒業又は課程の修了ができるよう配慮しています。</p> <p>以上の理由から授業料等については返金せず、前期分 267,900 円（獣医学類は 360,400 円）を納付いただくこととなります。ご理解頂ければ幸いです。</p> <p>図書館開館については以下のとおりです。</p> <p>【利用可能日時】 当面の間は、9時～19時。（土曜・日曜・祝日は休館） 夏季休業中（8月10日～9月25日）は、9時～17時。（土曜・日曜・祝日は休館） 8月31日～9月4日は蔵書点検のため休館します。</p> <p>その他、学生会館など学生が自由に使える施設については、引き続き感染拡大や社会情勢を見ながら、利用条件緩和の検討を続けてまいります。</p>
----	--

- ②今年度後期授業料を一律減額すること

回答	<p>新型コロナウイルス感染症については、学生の皆さまの感染リスクを低減するため、国、および大阪府による要請に基づき対応しています。</p> <p>その中で、法令で定められた学修時間を確保し、学生の皆さまが所定の修業年限で卒業又は課程の修了ができるよう、新たにオンライン授業など工夫しており、こういった対応はすべて大学負担でおこなわれています。全員の状況が同じではない中で、一律の対応が難しく、ご理解いただければと存じます。</p> <p>なお、特に経済的な面で負担が大きく学修が困難な方については、国や府、民間の奨学金のご案内に加え、大学独自の授業料の減免および徴収猶予、奨学金などの制度を設けております。ぜひご相談いただければと思います。</p>
----	---

③遠隔授業に関して全教員に対するマニュアルを改善すること。

要件として、以下4点を組み入れること。

- ・同期型の授業の場合は機能性（音質、画質等）、信頼性（プライバシー保護等）の確保されたアプリケーションを全学においてひとつ指定
- ・非同期型の授業の場合はPDF 等資料のみ配信の授業は原則禁止とし、これに加え内容の理解を助けるのに十分な音声ないし動画の配信の義務化、これらのアップロード先もまた全学においてひとつ指定
- ・授業の一環として課する課題の分量の、「受講する学生の提出するすべての課題に対し、必ず的確なフィードバックを行うことができる」ものへの加減
- ・期末試験等を行う際は対面での実施を原則禁止とし、試験内容を遠隔での実施に適したものへの調整

③-1	<p>・同期型の授業の場合は機能性（音質、画質等）、信頼性（プライバシー保護等）の確保されたアプリケーションを全学においてひとつ指定</p>
回答	<p>後期授業におきましては、オンライン授業は「同期型」（リアルタイム）ではなく「非同期型」（オンデマンド型）での実施を予定しています。</p> <p>この理由は、①同期型の場合、アクセスの集中によるサーバーへの負荷や、通信障害等の不測の事態が生じた場合に学生のみなさんの受講環境を担保できないことが懸念されるため、②感染防止策として各種施設の収容定員を縮減していることから、学生のみなさんがリアルタイムで同期型オンライン授業を受講するためのキャンパス内の環境確保等が困難なため、③学生のみなさんは通学、対面授業、オンライン授業、課題等を並行して行う環境下になることから、学生のみなさんが自身のスタイルに合わせてオンライン授業を受講できるようにするためです。</p> <p>なお、特段の事情により同期型で実施する場合は、大学がライセンス契約しているZoomもしくはMicrosoft Teamsでの利用を想定しています。しかしながら、各授業の運営方法や教授方法は多岐に亘り、その特性を踏まえますと、ひとつのアプリケーションを指定してすることはかえって教育効果の向上を妨げることになることが想定されるため、アプリケーションの指定はしておりません。但し、学生の皆さんがわかりやすいように、各授業で利用するアプリケーション等の情報については、授業支援システム上に掲示するように各教員に通達しています。</p>

③-2	<p>非同期型の授業の場合はPDF 等資料のみ配信の授業は原則禁止とし、これに加え内容の理解を助けるのに十分な音声ないし動画の配信の義務化、これらのアップロード先もまた全学においてひとつ指定</p>
回答	<p>前期に実施しましたオンライン授業に関するアンケートの結果でも、「資料のみ上がっている授業は、内容を理解しにくい」という改善要望をいただいております。これを受けまして、講義資料（PowerPoint ファイル、PDF ファイルなど）に加え、学生の理解が深まりやすくするため、可能な範囲で説明音声付き教材の掲載を推奨する旨、全学の教学会議である第6回教育企画運営会議（9月1日開催）にて、教員に対し依頼いたしました。</p> <p>なお、アップロード先については、データサイズの大きいものについては、授業支援システム以外での利用を教員にお願いしています。これは、授業実施期間中の授業支援システムの容量を可能な限り確保するための対応です。授業支援システムは、授業を提供するコンテンツを格納するだけでなく、教員が学生のみなさんに課した課題を格納する場所としても利用されており、授業支援システムの容量は、この学生のみなさんが提出する課題が大きな割合を占めています。</p> <p>本学ではオンライン授業の実施にあたり、数度に亘りシステムの増強対応を行っていますが、過度のシステムへの負荷により、授業支援システムを利用したオンライン授業の実施に支障が生じることを回避するためにもこのような対応としています。</p> <p>なお、学生のみなさんが提出する課題の中には、高性能なスマートフォンで撮影した大容量の画像データでの提出なども散見され、これが容量をひっ迫している一因となっています。後期では、学生のみなさんが提出する課題のデータダイエットについてもお願いする予定です。</p>

③-3	授業の一環として課する課題の分量の、「受講する学生の提出するすべての課題に対し、必ず的確なフィードバックを行うことができる」ものへの加減
回答	<p>前期に実施しましたオンライン授業に関するアンケートでも、「課題が多すぎる、出席確認代わりの課題が多い」といった要望や、「提出物・課題に対するフィードバックが欲しい」という要望が寄せられました。</p> <p>これを踏まえ、全学教学会議である第6回教育企画運営会議（9月1日開催）において、以下の通り教員に対し共有・依頼いたしました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①オンライン授業では課題が多くなりがちなることを考慮し、真に学生の学習に資する課題を厳選して出すこと（学習成果に結びつかない課題は出さない）を依頼 ②学習状況の把握の手法について、課題による確認以外の方法を共有 ③出席確認の方法について、課題による確認以外の方法を共有 ④学生のみなさんが自分の理解の程度を確認したり、改善点を見つけたりできるよう、提出物（小テスト、レポート）に対するフィードバックを行うことを依頼 ⑤授業支援システムの機能を活用したフィードバックの手法を共有 ⑥教員に過度に負担が集中しないフィードバックの手法を共有。

③-4	期末試験等を行う際は対面での実施を原則禁止とし、試験内容を遠隔での実施に適したものへの調整
回答	<p>後期の試験実施については、この冬の新型コロナウイルスの感染状況を見定めて判断していきます。前期の期末試験での課題を整理した上で、新型コロナウイルスの感染拡大防止のための対応を行いつつ、学生のみなさんの学修成果を適切に評価できるような試験実施方法を検討していきます。</p>